



令和4年11月30日(水)
練馬区立開進第四小校
校長 河崎 晃二

開四小だより

12月号

どうして勉強しなくてはいけないのか

校長 河崎 晃二

早いもので、今年もあと一月を残すばかりとなりました。新型コロナウイルス感染症が拡大する中、保護者や地域の皆様には大変お世話になっております。皆様のご協力とあたたかい励ましの数々に、心より感謝申し上げます。

*

唐突ですが、どうして勉強しなくてはいけないのでしょうか。将来よりよい生活をするためと言われても、子供にとっては曖昧であり必要感を感じないかもしれません。

もう少し具体的に伝えることが必要です。また、「勉強する意味」の答えはひとつだけではありません。その一部を紹介します。

・生きるうえで役立つものを選ぶため

将棋棋士の羽生善治さんは、「どうしてお母さんは、ボクの嫌いな勉強をおしつけてくるんだろう。」という子供の疑問に対して、「たくさんのことを知ると、生きていく上で役に立つものの中で、よりよいものを選べるから」と答えています。

・これからの時代に必要な能力を伸ばすため

東京大学名誉教授で教育学者の汐見稔幸先生は、「好奇心や思考力、表現力を伸ばすため」と答えています。これからは「教えたことをどのくらい覚えているか」ということを学力の目安とするよりは「与えられたテーマをどう解決していくか」という思考力や「考えたことをどう伝えるか」というコミュニケーション力や表現力を学力と考えています。つまり、テストで良い点数をとるために勉強が必要なのではなく、もっと広い視野で物事を考え、自分の言葉で表現する手段として勉強することが大切なのです。

・「学び方」を知るため

筑波大学准教授でメディアアーティストの落合陽一氏は、勉強する理由を「新しいことを考え、新しいことを身につける方法を学ぶため」と説いています。新しいことを学ぶ必要がある時に「どう学ぶのが自分にとって効率的か」を知っていると非常に有利になります。そのためにもどうやってその状態に自分をもっていけるかを考えながら、常に勉強し続けることが大事になってきます。よく「学校の勉強なんて社会に出たらまるで役に立たない」という言葉を耳にします。しかし「学習する訓練」を怠っていたら、社会に出たときに新しいことを学習する方法がわからないので、つまづいてしまいます。

大人であっても、新しい時代に取り残されないために、学び続ける必要があります。お子さんと勉強することの意味について一緒に考えてみてください。